

テーマ これからは純利益ではなく包括利益か

適用分野

国際会計基準の設定、投資意思決定



研究名称

包括利益（業績報告）に関する実証的研究

氏名所属

若林公美 教授
経営学部 経営学科

内容

●特徴

会計の重要な役割の一つは、「投資家の意思決定に資する情報を提供することである」といわれる。近年、国際会計基準審議会において新しい業績報告書の導入が検討されているが、これまでの当期純利益に対して、新たな業績報告書におけるボトムラインは包括利益とよばれる。包括利益情報は、現在開示されている貸借対照表の純資産項目（評価・換算差額等の期中変化額）と損益計算書の純利益を合算することにより計算されるが、包括利益が純利益に比べて投資家の意思決定に役立つ業績指標とみなされるか否かを実証的に検討することを研究課題としている。

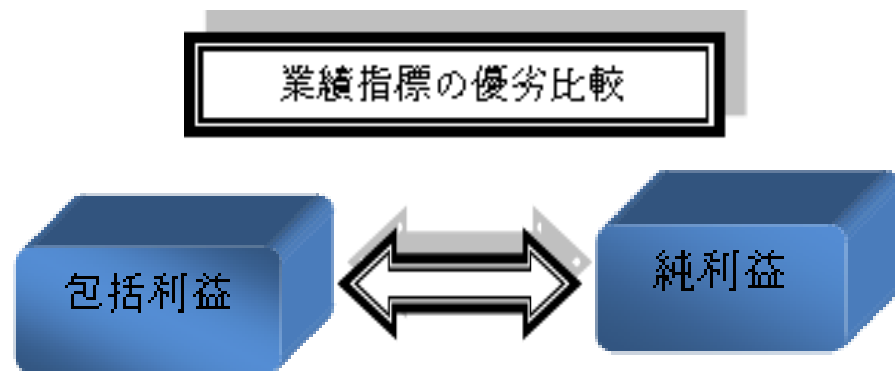
●研究内容

具体的には、以下の研究課題に取り組む。

- ・包括利益の方が純利益よりも業績予測に役立つ情報であるのか。
- ・包括利益の方が純利益よりも投資リスクの評価に役立つ情報であるのか。
- ・包括利益の方が純利益よりも価値関連性が高い

といえるのか。

- ・包括利益の方が純利益よりも経営者の利益調整行動を抑えることができるか。



キーワード

国際会計基準の設定、投資意思決定、バリューレレバンス、リスクレレバンス、利益調整行動

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究